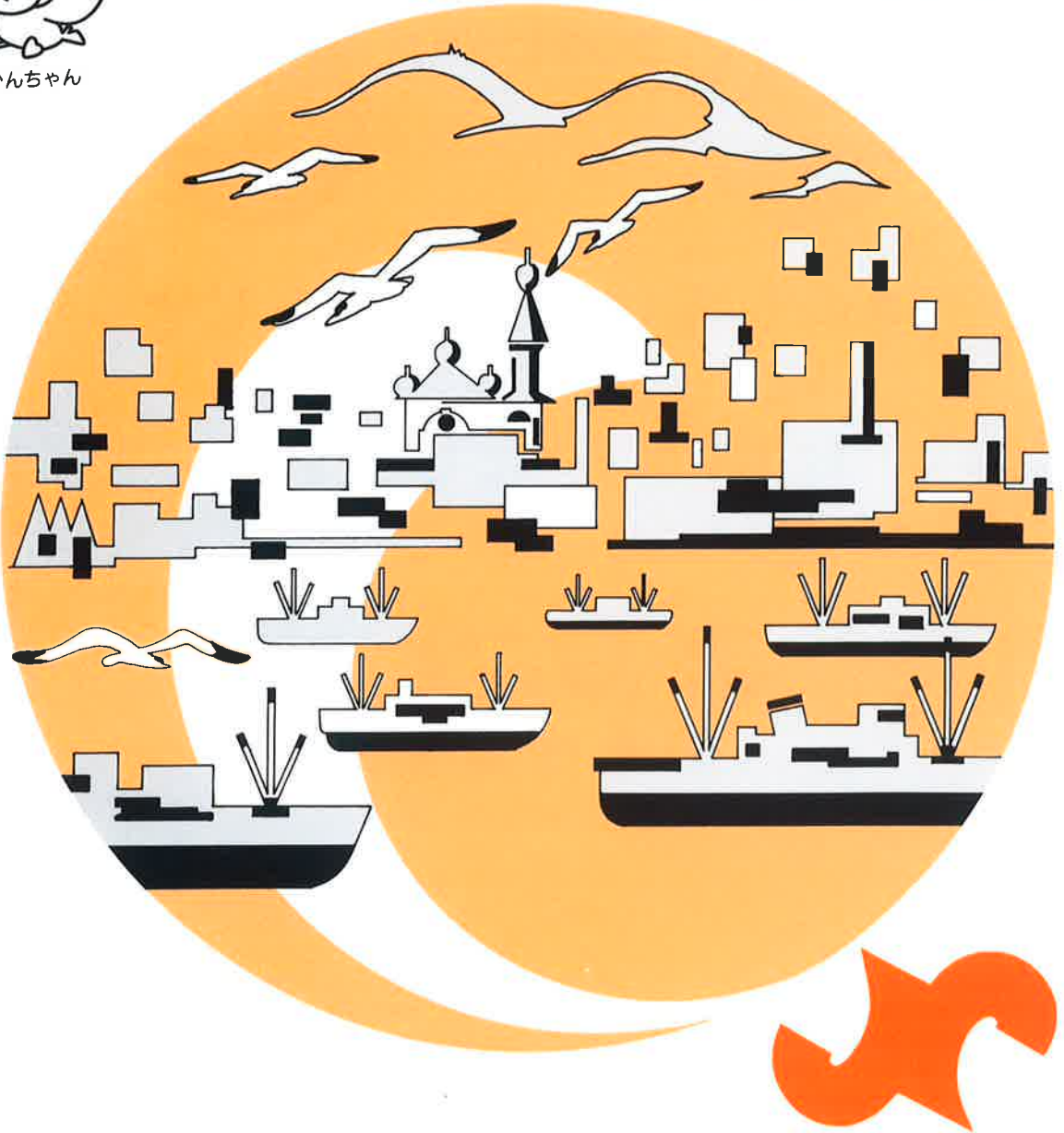


# ともえ No. 75



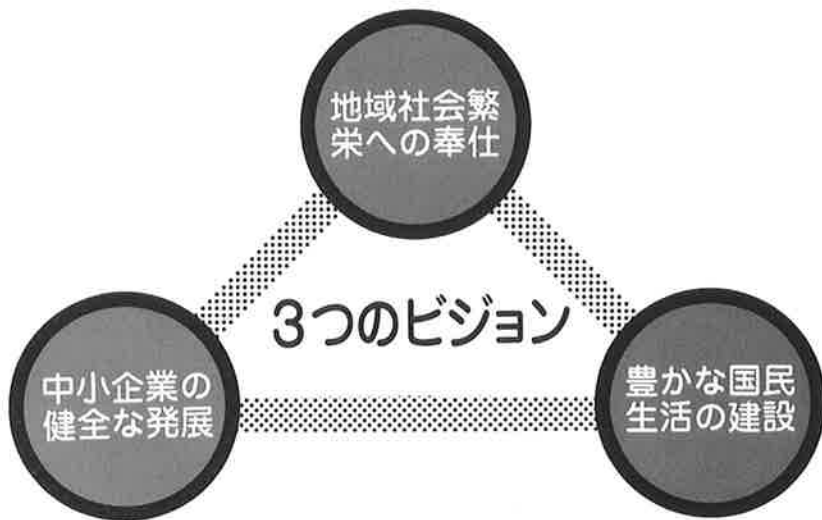
かんちゃん

'88 青函博 みんなの力で成功させよう！



■ 函館商工会議所報 ■  
**1987 5月号**

行動する  
はつらつたる  
商工会議所



はこしんは豊かな暮らしと  
 確かな未来の実現に  
 お手伝いいたします。



本部 函館市豊川町7番19号 TEL22-1241代

本 店	函館市豊川町15番20号	TEL22-1247代	亀田支店	函館市亀田本町56番4号	TEL42-3820代
松風町支店	函館市松風町11番15号	TEL23-6221代	中道支店	函館市中道1丁目24番12号	TEL51-1711代
ばんだい支店	函館市宮前町14番15号	TEL41-6236代	上磯支店	上磯郡上磯町飯生2丁目4番24号	TEL73-2151代
五稜郭支店	函館市本町30番24号	TEL52-0511代	えさん支店	亀田郡恵山町字中浜115番の4	TEL84-2111代
弁天支店	函館市弁天町13番11号	TEL26-3646代	七飯支店	亀田郡七飯町字本町392番8	TEL65-2501代
千代台支店	函館市千代台町12番22号	TEL51-5238代	木古内支店	上磯郡木古内町字本町53番1	TEL木古内 2-3121代
湯川支店	函館市湯川町2丁目18番7号	TEL57-1492代	知内支店	上磯郡知内町字重内13番地の11	TEL知内 5-5611代
花園支店	函館市日吉町1丁目27番3号	TEL53-5521代			

● ともえ・75号目次 ●

視点	1
会議所の動き	2
地域の景気	6
調査レポート	8
アドバイスコナー	12
寄稿文	14
Q & A	16
青函博コナー	18
ティータイム	20
ご案内	22



● 視点 ●

地方統一選挙も終了し、ゴールデンウィークも過ぎ、一年で最も爽やかな季節を迎えました。函館・五稜郭公園の桜も終り、まわりが緑一色となるのも間近かです。

ところで、昨年度の観光客は約三百万人ということで、前年度より十%近い増となりました。これは長い間の地味な努力が総り、ようやく函館のもつ自然や景観、そして歴史や文化などが評価され、理解され、そして行動に移された結果だと思えます。今は丁度修学旅行のシーズンですが生徒がグループ毎に、電車・バスを利用し研修する場所を事前に自主的に定め実行するというこの計画は、社会学習という面でも貴重な体験となっています。観光バスで市内を一巡するのではないこの方法による修学旅行が、最近大幅に増加しているのも、他に例を見ない大きな教育効果があると判断されたためと思えます。函館が安全なまちであり、中学生・高校生を中心としたこれらの研修が事故なく行われ、また暖い市民の協力があることも伸びた要因であり、子供達の印象にも良い影響を与えていると考えられます。

自分達が計画を組み実行し、自分の目で見て体で感じた偽いつわりのない函館の良い印象が、これら子供達が社会人になったとき、機会があつたらもう一度函館へという気持ちにも繋つながっていくとも考えられます。観光立市をめざす当函館市にとっては、本当に大切な将来のお客さんとなるこの中学・高校などの修学旅行の皆さんを大事にし、積極的に暖い態度で接しようではありませんか。

# 会 議 所 の 動 き



## 道南の経済界一致団結

### みなみ北海道広域商工振興協議会設立

来年夏に開催される青函博を契機に、みなみ北海道（函館市及び渡島・松山管内）の各地商工会及び商工会議所とが連絡協調しながら道南圏の広域的な経済振興を図ろうと「みなみ北海道広域商工振興連絡協議会」設立総会が去る四月十七日、本所会議室において開催されました。

協議会は渡島管内十六商工会、松山管内十商工会と本所及び森商工会議所の計二十八団体で組織さ



れており、道南の経済活性化を図る民間レベルでの連合組織体としては初めてのものとなっています。

協議会の事業計画は、

#### 一、青函博に関する事業の推進

- 。青函博に関するPR活動
- 。前売券の販売促進活動
- 。地域毎のイベント等の企画と実践
- 。宿泊施設整備促進

#### 二、交通輸送体系の整備促進

- 。北海道縦貫自動車道の函館側からの早期着工
- 。新大沼トンネルの早期完成
- 。函館空港の拡張整備と航空路線の拡充
- 。一村一品運動の積極的展開
- 。ブレ青函博道南リレーションシップの開催

#### 三、広域商工振興対策

- 。高規格道路の建設
- 。ニューフロンティアフェスティバル開催への協力・支援

- 。広域観光ルート整備と広域観光圏の確立
- 。関係諸団体との連携協調
- 。青函経済圏の確立
- 。国際リゾート地区の促進（国際観光モデル地区の指定）
- 。南北北海道地区への企業誘致の促進

#### 四、陳情・要望活動

- 。地域産品（特に一次産品）の高付加価値化と流通販路の拡大
- 。役員は欠の通りです。

会長 川田 寛 函館商工会議所  
 会頭、副会長 下郡山 信一 函館商工会議所副会頭、吉田 光男 森商工会議所会頭、矢野 昌介 北海道商工会連合会渡島支部長、西川 堅太郎 北海道商工会連合会松山支部長、監事 宇美 誠 北海道商工会連合会渡島副支部長、遠藤 満 北海道商工会連合会松山副支部長

# 地域の熱い期待に応え

## 函館ソフトウェア専門学院開院

本紙で再三報じてまいりました函館ソフトウェア専門学院が竣工し、四月十八日に落成式が行われ、川田会頭（同学院の経営母体、株式会社函館情報技術開発センター代表取締役社長）木戸浦市長ほか関係者が神前に玉串を奉奠し、前途の発展を祈願いたしました。

二〇三七平方メートルの敷地に鉄骨造三階建、延一三二〇平方メートルの白亜の建物は各科の教室のほか、通産省のΣプロジェクトに採用されているUNIXとC言語

の教育が出来る最新鋭のコンピュータ四十台が設置されている実習室や、各種実習に備えた計測器室などから成っており、情報化時代を象徴するにふさわしい学院が誕生しました。

神事のあとの披露宴で来賓の市長や寺山支庁長は「若し行政主導ですすめたら少くとも一年半以上はかかると思われた仕事だが、昨年十月に母体の会社が発足して以来、僅か半年で落成、開院にこぎつけた会議所を中心とする経済界の努力は正に民力の力をみせつけられた思い」と関係者の努力を称えました。

四月二十四日には、四学科百四十六名の入学式が挙行され、柴田学院長から「目標に到達するのが勉強である。すすんで自らを鍛えてほしい。単に専門家となるだけでなく広い知識と豊かな感性をみがき立派な市民となつてほしい。」との訓示があり、見守る来賓、父

兄から熱い期待をよせられスタートしました。

入学生の大半は函館市及び近郊の高校卒業生ですが、中には本州企業からのUターン者や銀行を退職して入った人などもおり、学院に対する期待の大きさがうかがわれます。

同学院の特色は、前述のUNIXとC言語の教育を行うことや、コンピュータと通信を結合した情報通信システムの教育などです。

去る四月二十六日、第四十一回国民珠算競技大会道南地区予選が函館並びに苫小牧の二会場で同時開催されました。

これは五月三十一日、福井市で開催される中央大会への地区代表選手を選出するためのもので、両会場合わせて七十二人の

### 国民珠算大会道南予選開催

七十二人の

輝きました。

）が三年連続の荣誉に

もに、実習にも多くの時間をとり、国家試験である第一種、第二種情報処理技術者試験に合格出来るようなレベルの高い専門知識を身につけ、実社会で即戦力となり得る人材を養成することにあります。益々多様化、高度化してゆく情報化時代に向つて、明年も第一期生に続く、優秀な若者が入学し、地域活性化の一翼を担ってくれることを期待しています。

三位 日沼裕子（函館・戸倉中）

小野慶子（函館・遺愛高）

田中雅美（苫小牧・弥生中）

また、同日は第十九回全国小学生珠算競技大会も同時に開催され、二会場で百五十三人が参加する中で、城生野由美さん（苫小牧緑小

選手が技を競いました。

各種目で熱戦が展開され、競技の結果「そろばん道南一」の座には村瀬智幸登さん（駒沢短大）が

三年連続の荣誉に輝きました。

◎国民大会道南地区予選入賞者

（函館会場分）

三位 綿谷美咲（附属小）

二位 高橋 愛（鷲木小）

二位 中川由紀子（弥生生）

二位 砂田有貴子（昭和小）

優良賞 工藤亜衣（湯川小）



# 優良土産品に八点

## 観光土産品審査会・推奨会開催

来函客に「より良いイメージ」を持ち帰ってもらおうと、本格的な観光シーズンを前に郷土産品の審査会並びに推奨会が去る四月二十四日本所で開催されました。審査会では、包装や表示事項などについて各方面の専門家による厳正な審査がなされました。合格商品には「優良土産品認定シール」の貼付を認めております



ので、このシールの貼ってある商品は観光客に安心して奨められる土産品といえます。

引き続き行なわれた推奨会では、前記審査会で合格した商品に対し更に味覚、郷土色、価格、包装デザインなどが吟味され、特に優秀な別表の八点に各賞が授与されました。

これらの商品は代表的な郷土産品として「観光函館」のイメージアップに大いに役立ってくれることでしょう。

# 華麗に維新行列

## 十八回箱館五稜郭祭盛大に!

ペリー提督(アメリカ)の来航から箱館戦争(戊申の役)終了までの、わが国が近代国家に生まれ変わる激動の歴史を背景に、当時を再現して行われる「第十八回箱

館五稜郭祭が、五月十五日の前夜祭、十六・十七日の本祭の日程で、五稜郭・本町地区を中心に開催されました。

本年は、前夜祭において一昨年

昭和62年度 第32回 函館優良土産品推奨会受賞商品

賞 名	商 品 名(価 格 等)	製 造 ・ 販 売 元
函 館 市 長 賞	独 身 貴 族 1,800円 はこだて手造りチョコレート詰合 (ホワト、ミルク、ブラック、コーヒー)	(株)不二屋本店 (株)第一食品
函館商工会議所会頭賞	はこだてわいんプロムナード (赤・白・ロゼ) 3,000円 青函トンネルまんじゅう 600円	(株)はこだてわいん (株)末廣堂富田製菓所 朝日食品(株)
みちの北海道地区観光土産品公正取引協議会会長賞	北の便りミニピンシリーズ8本入 3,000円	
奨 励 賞	松 前 漬 700円 いかごはん 2尾入 450円 はこだて元町手造りチョコレート 1,000円	(株)不二家本店 朝日食品(株) (株)第一食品

好評を博した「ミスター土方コンテスト」が復活し、また、本祭には(財団法人)自治総合センターの助成を得、箱館開港当時のアメリカ東インド洋艦隊の黒船を模した山車(全長約十一メートル、全幅約二・二メートル、製作費約四百万円)が初登場したほか、装備強化の一環として新たに征討軍(明治政府軍)では「箱館府兵隊」、榎本軍(旧幕府軍)では古屋作左衛門が率いる「衝鋒隊」の二隊、各二十人分が追加されました。

また、本年はライオンズクラブ331C地区の地区大会が当地で開催され、五月十七日の歓迎セレモニーにこの維新行列が参加したほか、五月十一日の碑前祭当日は、大門地区で実施された「ふれあい広場」のオープンセレモニーに協力し、同地区を行進するなど全市的な祭りに成長してきました。

来年の第十九回は「青函博」の会期中に実施することが決定しており、今後日程、内容等の検討が行われておりますが、函館観光の目玉として大いに期待されています。



# 事務局日誌

4 月

**\* 正副会頭会議**

- 13日 第32回正副会頭会議
- 30日 第33回正副会頭会議

**\* 会議(日商)**

- 16日 第351回常議員会
- 〃 第100回議員総会

**\* 審査会**

- 24日 小企業等経営改善資金の審査会

**\* 諸会議**

- 2日 国民春闘共闘会議と経営者協会との懇談会
- 〃 函館財務事務所長と景気動向に関する懇談会
- 〃 所報「ともえ」No.74 (4月号) 編集会議
- 6日 成功させよう青函博の会常任幹事会
- 8日 函館鉄工・機械関連企業受注対策委員会
- 〃 箱館五稜郭祭募金委員会
- 〃 第4回株式会社函館インフォメーションネットワーク設立発起人会
- 10日 大同生命函館支社幹部との懇談会
- 13日 販売士協会理事会
- 14日 婦人会定時総会並びに懇親会
- 〃 函館市交通事業経営審議会
- 〃 第2回函館地域ニューメディア推進協議会
- 〃 昭和61年度経営改善普及事業補助金実績報告
- 〃 成功させよう青函博の会イベント対策部会
- 16日 ジャックス山根社長との青函博に関する懇談会
- 〃 函館観光協会常任理事会
- 17日 みなみ北海道広域商工振興連絡協議会設立総会
- 〃 経営者協会金曜会
- 〃 公害説明会
- 20日 函館生命保険協会懇談会

- 20日 鉄道貨物協会函館支部幹事会
- 21日 成功させよう青函博の会イベント対策部会
- 23日 渡島地方技能尊重運動推進協議会理事会
- 24日 函館市交通事業経営審議会
- 〃 函館優良土産品審査会・同推奨会
- 27日 箱館五稜郭祭募金委員会
- 〃 販売士協会理事会
- 28日 昭和62年度春期道内モデル貸金調査等担当者会議
- 〃 緊急能力開発対策協議会
- 〃 所報「ともえ」No.75 (5月号) 編集会議
- 30日 函館観光協会理事会・総会

**\* 講習・催物**

- 6日 青函博前売券発売開始セレモニー
- 10日 法律相談
- 15日 発明相談
- 〃 函館組組合講習会
- 22日 経営相談
- 24日 法律相談
- 26日 第41回国民珠算競技大会道南地区予選

**\* 刊行物**

- 20日 所報「ともえ」No.74 (4月号) 発行

**\* 相談・診断**

金融152 税務33 経理23 経営131  
労働139 取引0 その他8 計486

**\* 貸室**

本館 36 別館 3

**\* 文書**

受信 255 発信 13

**\* 慶弔・その他**

- 1日 北海道旅客鉄道株発足セレモニー
- 〃 前側石油株創業50周年記念祝賀会
- 4日 岩船修三展 (8月7日まで)
- 16日 川田会頭科学技術庁長官賞表彰式
- 18日 函館ソフトウェア専門学院竣工式並びに落成披露
- 20日 函館ソフトウェア専門学院記念講演会
- 〃 室蘭商工会議所北野専務理事葬儀
- 24日 北海道旅客鉄道株創立披露パーティー
- 〃 函館文化新しい帆の会講演  
「函館と青函博」

65年の伝統と信用を誇る

## 早川特許事務所

特許、実用新案、意匠、商標、権利侵害

所長 弁理士 早川 政名

〒112 東京都文京区白山5-14-7 早川ビル 電話 (03) 946-0531 <代表>

**発明相談** 6月17日 水曜日午後1時から午後5時まで、函館商工会議所で相談をお受けいたします。相談は予約制になっておりますので、商工会議所相談課 (23-1181・内線63番) にお申し込み下さい。

### (その他の製造業)

合板(薄物)では、住宅、家具、家電等の根強い実需を背景に市場における品薄感が依然強く、荷動き、市況とも順調なため、目一杯のフル生産を続行。セメント・生コンの荷動きは、公共工事の増加や民間建築の堅調を映じて引き続き好調。

### (建設関連)

建設業者では、前年度公共事業の追加発注や、市内ホテル、マンション等民間建築の堅調(62/1~3月の市内建築物着工床面積前年比+19.3%)から比較的高目の手持ち工事を抱えているほか、新年度公共事業の前倒し発注も期待されるとあって、一部に作業員の採用増に踏み切る動きもみられるなど、業況は順調に推移。

### (漁業)

噴火湾養殖ホタテ漁は、水揚げ数量、金額ともに前年を5割方上回るなど好調のうちにほぼ終了。3月解禁後不漁を続けていた近海マス漁も、4月入りとともに水揚げが上向いてきている模様。

### (小売商況)

3月中の市内大型小売店(10か店)の売り上げは、婦人春物衣料品、身回り品、雑貨等が堅調な動きを示したものの、一部百貨店筋で曜日関係から営業日数が前年に比べ1日減ったこと等が響き、月中ではほぼ前年並み(前年比△1.0%)となった。4月入り後は、婦人春物衣料品、新入学用品等の好売れ行きに支えられ比較的順調に推移している模様。また、自動車販売がディーラー筋の期末拡販努力の奏効もあって2月に引き続き前年水準を上回った(3月中管内自動車新車販売台数+3.2%)ほか、家電販売も大型カラーテレビ、VTR、電子レンジ等人気商品を中心に好調を継続している。

シーズンインの観光・レジャー面では、ゴールデンウィーク期間中の市内宿泊施設、航空便の予約が既に満杯となるなど、好調な出足をみせている模様。

### 3. 金融事情(3月中および61年度中)

○管内金融機関の実質預金は、法人筋の期末回収資金や公金・金融機関預金の積み上がりから、月中では210億円の増加となったものの、増加幅は年金流入増等により前月好伸した個人預金の反動落ちを映じて前年(301億円増)比3割方縮小。

61年度中では、個人預金の伸び悩みが響き、176億円増と前年度(184億円増)を若干下回る増加。

一方、貸出は、建設、卸・小売業の期末決済資金および地方公共団体の年度末つなぎ資金が高んだため、月中では225億円増と前年(167億円増)比3割方増加。

61年度中では、企業需資が総じて落ち着き気味に推移したことから142億円増と前年度(138億円増)並みの増加に止まった。

この間、管内銀行の貸出約定平均金利は手形、証書の書き替えが集中する期末月に長短プライムレートが引き下げられたことから利下げ交渉が進展、月中△0.139%と引き続き大幅低下(前月△0.118%、61年度中△0.757%)。

○銀行券は、期末決済の現金需要等が高んだため、月中22億円の発行超となったが、発行超幅は国鉄退職金の支給減少(前年3月は共済年金支給方式変更前の駆け込み退職が集中)を主因に前年(発行超48億円)比半減。

61年度中では、観光・レジャー資金の流入増等を映じて、144億円の還収超(前年度同118億円)。

○財政収支は、年度末月とあって、運用部貸出の返金、租税、保険の受入等が高んだものの、一般諸払、公共事業関係費、国鉄等の支払も多額に上ったため、結局月中では8億円の小幅払超(前年同96億円)。

61年度中でも、公共事業関係費や郵貯の支払増がみられたものの、国鉄給与、退職金の支払減が響き、払超245億円と払超幅は前年度(同402億円)比大幅縮小。

以上



## 地域の

## 景況

## —— 日本銀行函館支店 ——

## 1. 概況

○最近の管内経済動向をみると、企業の生産活動は引き続き鈍いものの、季節的な着業期入りもあって、公共・住宅投資、個人消費等が底固い動きを示しており、また、観光・レジャーも好調な出足をみせていることなどから、総じてみれば、このところ次第に下げ止まり感が出てきている。

○すなわち、企業の生産活動面をみると、合板、合板機械が旺盛な需要を背景に増産体制を敷いているほか、セメント・生コン、水産加工等も実需堅調から高操業を維持。しかしながら、需要低迷の造船、製缶機械が低操業を余儀なくされているのはじめ日米貿易摩擦問題を抱える電子部品や需要伸び悩みの乳加工品、化学肥料、段ボール等でも減産ないし生産抑制姿勢を続けている。

この間、公共・住宅投資関連では、公共事業の追加発注やホテル等民間建築の堅調を背景に業況順調で、また個人消費面では大型小売店、自動車・家電ディーラーの売り上げが底固いほか、シーズンインの観光・レジャーも好調な出足をみせている。

○金融面では、企業の期末決済資金や地方公共団体のつなぎ資金需要が増加。管内銀行の貸出約定平均金利は、長短プライムレートの相次ぐ引き下げを映じて大幅低下。

## 2. 主要業種別動向

## (造船)

修繕船・陸機部門の受注は官・民間船、橋梁等を中心に順調ながら、新造船部門の仕事量が払底しているため、低操業が続いている。この間、余剰人員は部門間配転や

雇用保険法に基づく教育訓練の実施で対処。

## (電子部品)

これまでの業界の減産効果から、ここへきて内外需給バランスおよび市況が徐々に改善されつつあるものの、日米半導体摩擦絡みの通産省の減産指導に沿って減産体制を継続。

## (機械)

合板機械では、汎用高級機種等に対する内外合板メーカーからの注文が相次ぎ受注残高が一段と上伸。このため、目一杯の時間外勤務により受注消化に懸命。一方、製缶機械では、食品用缶メーカーの設備投資マインド後退を映じて受注が低迷している。

## (化学)

飼料・魚油では、主力飼料の荷動き、市況が回復傾向にあるほか、健康食品EPAや養魚用餌料の引き合いも好調なため、生産は漸増。化学肥料では、道北・道央部の融雪遅れや先行きの肥料価格低下を見越した買い手控えの動きから荷動きが鈍いため生産は抑制気味。

## (段ボール)

春野菜の収穫・出荷本格化から青果物向けは上向いているものの、北洋船団の発注減少等から水産物向け荷動きが低調なため引き続き生産は抑制。

## (水産加工)

行楽・レジャー需要の盛り上がりを映じて消費地問屋筋からの引き合いが活発化しているため、時間外勤務の導入等により操業度を引き上げ。

## (乳加工品)

乳飲料の売れ行き持ち直しや原乳の減産効果等を映じて市乳、粉乳の需給地合いがこのところ幾分引き締まりつつあるものの練乳の在庫水準がなお高目のため、生産は引き続き抑制。

## (漁網)

ホタテ等養殖用資材を除き新規受注が低調裡に推移しているものの、サケ・マス流し網の需要・出荷最盛期とあって、操業度は比較的高目。

## 【卸売業】

今期比D I 31.6、前年同期比D I 8.5といずれもD Iがプラスを示している。

細業種でみると、食料品業、医薬品・化粧品業、建築材料業は今期比、前年同期比ともにD Iがプラスを示し業績好転を見込んでいるが、逆に燃料業はともにD Iがマイナスを示している。

## 【小売業】

今期比D I 4.8、前年同期比D I 8.1といずれもD Iは若干マイナスを示している。

細業種でみると、各種商品販売業は比較的明るい予想をしており、自動車販売業も前年同期比ではD Iがプラスを示している。しかし他はすべて悪化基調を予想しており、特に衣服・身の回り品販売業、食料品販売業は今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示している。

## 【サービス業】

今期比D I 8.7、前年同期比D I 0.0を示し

ており、特に今期比では増収を見込んでいる。

細業種でみると、自動車整備業は今期比、前年同期比ともにD Iがマイナスを示し業績悪化を予想しているが、他の業種はすべて好転を見込んでおり、ホテル・旅館業とクリーニング・理美容業はともにD Iがプラスを示している。

## 3. 資金繰りについて

来期の資金繰りについては、全業種で今期に比べ「好転」とみる企業8.8%に対し、「悪化」とみる企業11.2%でD I 2.4を示しているが「変わらない」とする企業が80.0%もあり、ほぼ今期並みに推移される見通しである。

これを業種別にみると建設業D I 13.7、製造業D I 3.7、卸売業D I 1.7、小売業D I 0.0、サービス業D I 4.3を示しているが、各業種とも大半の企業が「変わらない」としている。

## 統 計 資 料

## 第一種函館市内大規模小売店舗売上高 (10店) 昭和62年 3月

品 名	売上高(千円)	対前月比(%)	対前年同月比(%)
衣 料 品	3,461,592	158.9	95.9
身 回 品	666,670	187.6	106.7
雑 貨	918,504	151.3	99.6
家 庭 用 品	793,509	140.8	93.6
食 料 品	1,799,703	116.7	97.7
食 堂 ・ 喫 茶	217,746	141.8	96.4
サ ー ビ ス	82,311	166.2	107.9
そ の 他	406,005	136.7	143.7
総 計	8,346,040	145.2	99.0

※10店とは棒二森屋、丸井今井、さいか、和光、ハイショップホリタ、テーオー小笠原、長崎屋、イトーヨーカ堂、函館西武、ホリタショッピングプラザ湯の川店の各店をいう。

### 5. 経営上の問題点について

今期最も苦慮している経営上の問題点としては、やはり「売り上げ・受注の不振」をあげる企業が多く、全業種で45.3%を占めている。

この「売り上げ・受注の不振」を業種別にみると、建設業42.4%、製造業49.2%、卸売業40.6%、小売業50.8%、サービス業36.8%となっている。

他に経営上の問題点をみると、建設業では「工事価格の値下り」26.9%、「景気の見通し難」15.4%、製造業では「景気の見通し難」14.0%、「製品安」・「純利益の減少」がそれぞれ10.5%、卸売業では「景気の見通し難」22.0%、「純利益の減少」11.9%、小売業では「純利益の減少」15.1%、「客足の減少」11.3%、サービス業では「同業者の競合」が26.3%、「客足の減少」・「営業経費の増加」がそれぞれ10.5%等となっている。

### 来期（4月～6月）の見通し

#### 1. 業況について

函館地域企業の来期業況見通しを全業種でみると、今期に比べ「好転」するとみる企業26.2%に対し、「横ばい」企業58.3%、「悪化」するとみる企業15.5%でD I 10.7、また前年同期比でみると「好転」するとみる企業17.1%に対し、「悪化」するとみる企業20.6%でD I △3.5と、今期比ではD I がプラスを示し、好転基調を予想している。

業種別にみると、今期比では建設業D I △3.7、製造業D I 18.0、卸売業D I 20.0、小売業D I 1.6、サービス業D I 8.7と、建設業以外はすべてD I がプラスを示し、比較的明るい見方をしている。

また、前年同期比でみるとサービス業（D I 0.0）が横ばい状態を予想している以外は、各業種とも若干D I がマイナスを示しているが、ほぼ前年並みが予想される。

このように来期の業況は、盛業期入りでやや明るい見通しとなっている。

図-5 来期の業況見通し（対前年同期比）

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種(-3.5)	17.1	62.3	20.6
建設業(-3.7)	25.9	44.5	29.6
製造業(-6.6)	11.7	70.0	18.3
卸売業(-3.5)	17.2	62.1	20.7
小売業(-1.7)	20.0	58.3	21.7
サービス業(0.0)	13.0	74.0	13.0

#### 2. 売上額について

来期の売り上げ見通しを全業種でみると、今期に比べ「増加」するとみる企業32.0%に対し、「横ばい」企業48.4%、「減少」するとみる企業19.6%でD I 12.4とプラスを示し業績好転を見込んでおり、また前年同期比では「増加」企業20.6%に対し、「横ばい」企業56.9%、「減少」企業22.5%でD I △1.9と、ほぼ横ばい状態を予想している。

次に来期の売り上げ見通しを業種別にみると、

図-6 来期の売り上げ見通し

(対前年同期比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種(-1.9)	20.6	56.9	22.5
建設業(-13.6)	27.3	31.8	40.9
製造業(-1.9)	15.4	67.3	17.3
卸売業(8.5)	28.8	50.9	20.3
小売業(-8.1)	17.7	56.5	25.8
サービス業(0.0)	13.0	74.0	13.0

#### 【建設業】

今期比ではD I 0.0とほぼ横ばいだが、前年同期比ではD I △13.6とマイナスを示し、業績悪化を予想している。

#### 【製造業】

今期比D I 17.3、前年同期比D I △1.9と、今期比ではD I がプラスを示し業績好転を見込んでいる。

細業種でみると、造船業は今期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し依然として低操業が予想されているが、他は比較的明るい見通しを立てており、特に水産加工業、飲食料品業、金属・一般機械器具業は今期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し、業績好転を見込んでいる。

細業種で見ると、総合工事業と設備工事業が好調を持續している。

このように今期の建設業界は、引き続き公共事業、民間建築ともに順調で業績は好転している。

### 【製造業】

今期の生産額は、前期比D I △27.2、前年同期比D I △24.1といずれもD I がマイナスを示し、業績は悪化している。

細業種で見ると、漁網業がほぼ横ばい状態を示している以外は、すべての業種が悪化基調で推移しており、特に窯業・土石製品業、金属・一般機械器具業は、前期比、前年同期比ともに過半数の企業が業績悪化を訴えている。

### 【卸売業】

今期の売上額は、前期比D I △38.0、前年同期比D I △20.4といずれもD I がマイナスを示しており、特に前期比では過半数の企業が悪化を訴えている。

細業種で見ると、建築材料業は前年同期比でD I がプラスを示し業績好転しているが、他の業種は悪化基調で推移しており、特に食料品業、燃料業、一般機械器具業は前期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示している。

### 【小売業】

今期の売上額は、前期比D I △24.6、前年同期比D I △18.3といずれもD I がマイナスを示している。

細業種で見ると、各種商品販売業は前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し業績好転しており、自動車販売業も前期比ではD I がプラスを示している。しかし逆に衣服・身の回り品販売業、食料品販売業はともにD I がマイナスを示し業績は悪化しており、その他の業種も悪化ぎみに推移した。

### 【サービス業】

今期の売上額は、前期比D I 13.0、前年同期比D I 9.1といずれもD I がプラスを示し、業績好転している。

細業種で見ると、自動車整備業は前期比、前年同期比ともにD I がマイナスを示し業績悪化しているが、他の業種は好転基調で推移

しており、特にホテル・旅館業とクリーニング・理美容業は前期比、前年同期比ともにD I がプラスを示し業績好転している。

## 3. 純利益について

今期の純利益を全業種で見ると、前期に比べて「増加」している企業15.5%に対して、「横ばい」企業47.9%、「減少」している企業36.6%でD I は△21.1を示しており、前年同期比でも「減少」企業33.5%が、「増加」企業17.4%を上回っており、D I △16.1と、減少傾向が続いている。

図-3 今期の純利益 (対前年同期比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種(-16.1)	17.4	49.1	33.5
建設業(-11.1)	18.5	51.9	29.6
製造業(-18.3)	20.0	41.7	38.3
卸売業(-28.1)	12.3	47.3	40.4
小売業(-10.2)	20.3	49.2	30.5
サービス業(0.0)	14.3	71.4	14.3

業種別にみると各業種とも悪化傾向にあるなかで、建設業の総合工事業、卸売業の建築材料業、小売業の各種商品販売業、自動車販売業、サービス業のホテル・旅館業がそれぞれ、採算面でやや明るさをみせている。

## 4. 資金繰りについて

今期の資金繰りを全業種で見ると、前期に比べ「好転」した企業8.5%に対し、「悪化」した企業14.7%でD I は△6.2を示しているが、「変わらない」とする企業が76.8%を占め、ほぼ前期並みに推移した。

業種別にD I をみると、建設業、サービス業はプラス、製造業、卸売業、小売業はマイナスを示しているが、各業種とも7割以上の企業が「変わらない」としている。

図-4 今期の資金繰り (対前比)

(D. I)	好転	横ばい	悪化
全業種(-6.2)	8.5	76.8	14.7
建設業(3.8)	11.5	80.8	7.7
製造業(-20.0)	1.7	76.6	21.7
卸売業(-6.9)	6.9	79.3	13.8
小売業(-1.7)	13.6	71.1	15.3
サービス業(9.5)	14.3	80.9	4.8

経済の窓

昭和61年

工業統計  
調査結果概要

昭和61年度第4・四半期(昭和62年1月～3月)の函館における景気動向調査結果がまとまりましたので概況をお知らせします。

尚、調査対象及び回収状況は次の通りです。

業種別	対象企業数	回収企業数	回収率
全業種	395社	277社	70.1%
建設業	50	32	64.0
製造業	100	76	76.0
卸売業	80	64	80.0
小売業	120	75	62.5
サービス業	45	30	66.7

(注) 本調査結果の中でD Iとある記号は、デیفュージョン・インデックス(景気動向指数)の略で、各調査項目について増加(好転・上昇)企業割合から減少(悪化・低下)企業割合を差し引いた値を示しています。

今期(1月～3月)の実績

1. 業況について

函館地域企業の今期業況を全業種で見ると、前期に比べ「好転」している企業15.2%に対し、「横ばい」企業51.3%、「悪化」している企業33.5%で、D Iは△18.3とマイナスを示している。

これを業種別にみると、建設業D I 3.8、サービス業D I 13.1とD Iがプラスを示し好転しているが、他は製造業D I △26.7、卸売業D I △36.7、小売業D I △13.1といずれもマイナスを示している。

また、今期の業況を前年同期比で見ると、全業種では「好転」企業18.5%に対し、「横ばい」企業53.6%、「悪化」企業27.9%で、D Iは△9.4を示し前年より悪化ぎみに推移した。

これを業種別にみると、建設業とサービス業はD Iがプラスを示し好転基調だが、逆に製造業、卸売業、小売業はマイナスを示し悪化基調で推移した。

このように今期の業況は、建築関連が公共事業、民間建築ともに好調を持続しており、観光・サービス関連も上向いているが、企業の生産活動や個人消費は依然として低調に推移した。

図-1 今期の業況(対前年同期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種(-9.4)	18.5	53.6	27.9
建設業(29.7)	48.2	33.3	18.5
製造業(-15.8)	15.8	52.6	31.6
卸売業(-24.6)	10.5	54.4	35.1
小売業(-12.1)	15.5	56.9	27.6
サービス業(4.4)	17.4	69.6	13.0

2. 売上額について

今期の売上額の状況を全業種で見ると、前期に比べ「増加」している企業18.5%に対し、「横ばい」企業41.4%、「減少」している企業40.1%で、D Iは△21.6とマイナスを示し業績は悪化している。

また、今期の売上額を前年同期比で見ると全業種では「増加」企業22.1%に対し、「横ばい」企業42.5%、「減少」企業35.4%で、D Iは△13.3を示し、前年よりも悪化している。

図-2 今期の売上額(対前年同期比)

(D.I)	好転	横ばい	悪化
全業種(-13.3)	22.1	42.5	35.4
建設業(18.6)	40.8	37.0	22.2
製造業(-24.1)	20.7	34.5	44.8
卸売業(-20.4)	22.0	35.6	42.4
小売業(-18.3)	15.0	51.7	33.3
サービス業(9.1)	22.7	63.7	13.6

次に売上額を業種別にみると

【建設業】

今期の工事完成額は、前期比D I 3.8、前年同期比D I 18.6といずれもD Iがプラスを示し、業績は好転している。

## クルマ社会の防衛策

### 賠償責任から

### 労災責任まで



●著者／弁護士 福嶋弘榮



**第三章 従業員が**  
**会社の車で物をこわしたら**  
 これまで例にあげてきた話は、「自動車事故で人が死亡したり、傷害を受けた場合は」とか、「人身事故を起こしたら」とかの前提のもとに述べてきたように、人の生命身体が害されて損害が発生したときのことでした。  
 読者のなかには、すでにおわか

りになった方もいると思いますが、自賠法三条によって賠償責任を負わなければならないのは、自動車事故によって人の生命身体が害されたことによる損害（人損）という）についてなのです。  
 自動車事故が発生したとしてもそれによって生じた損害が自動車の修理代金などの物に関する損害（「物損」という）であれば、被害者は自賠法三条によって賠償を求めめることはできません。  
 たとえば、従業員が業務のため会社の自動車を運転中、物損事故を起こし、相手の自動車が毀れるという損害が生じたとしましょう。自賠法三条の適用があるなら、被害者はその会社の自動車によって損害が生じたことを立証しさえすれば、会社に対して賠償を求めることができのですが、これによることはできないため、被害者は他の法律構成によって会社の賠償責任を追求することになります。その根拠となるのが、民法七一一

条の使用者責任の規定です。民法七一一五条は、「ある事業のために他人を使用する者は、被用者がその事業の執行について第三者に加えたる損害を賠償する責に任ず。」と規定しています。

この規定の趣旨は、従業員が使用者の業務の執行にあたって故意または過失により他人に損害を与えたときは、その使用者は損害を賠償しなければならないということです。ただ、従業員に第一項で述べた民法七〇九条の責任の成立することが、この規定の前提になっています。

自賠法三条と似ているようにも思えますが、これによって使用者の責任を追及するには、被用者の故意または過失ある行為によって損害の生じたことを、被害者の方で立証しなければならないので、被害者に立証上の負担があるといえます。

けれども、交通事故はほとんどの場合運転者に過失がないかぎり発生しませんので、この立証は容易です。

もつとも、民法七一一五条では、その但書で、使用者が従業員の選任監督につき相当の注意を払っていたときは、同条の責任を負わないとしていますので、使用者がこ

観光名所・元町に  
また一つ新しい名所が……  
ソフトドリンクの店

● 当店

# 箱館元町

ウ ス ケン ヤカダ  
字 須 岸 の 館

13-4 MOTOMACHI HAKODATE  
PHONE(0138)23-3581